

活動報告書

報告者氏名:羽鳥洋美

所属:東京都立八王子東特別支援学校

記録日:2014年2月28日

【対象児(群)の情報】

○学年:中学部2年男子、障害名:脳性まひによる運動機能障害(四肢麻痺)

○障害と困難の内容

・上肢の障害による操作性の困難

⇒かばんから本を出す・本を広げる・ページをめくる・ページを押さえる・机上を整理する・本をしまう・筆記する、といった授業で行う一連の所作全てが難しい。

・見えの困難

⇒読みとばし・勝手読み・キーワードを探すことが難しい・いったん目が離れると元の箇所に戻ることが難しい。

⇒⇒文字から音への変換、音から意味への変換には問題は見られないことから、上肢の操作性と見えの困難さから、紙媒体での文字を読むことが困難となっていると考える。(「先生、読んでください。聞けば分かるけど、自分で読むと、読むことに必死になってしまって内容が分からない。」)

【活動目的】「自分を伸ばすツールをさがし、やりたいことを実現できる生き生きした大人になる！」

多様な困難さから生じる様々なストレスを、タブレット端末を使うことで軽減し、生活を豊かにすることを目的に取り組んでいる。

中学部2年～卒業時までのねらい「学習面で、タブレット端末を使いこなし、学習能力の向上を図る」

Step1:教科書、ノートテイク、宿題、連絡帳等を、端末で代替する。また、それを使いこなす。

- ・アプリの操作方法、タグの付け方(情報の整理の仕方)、メール送受信、等の習得。
- ・ゲームをやり、手や目の使い方を楽しみながら向上させる。

Step2:思考力・表現力を向上させるための端末の活用その1

- ・長文読解力向上。要約。自分の考えを整理・構成・推敲しまとめ上げる。

Step3:思考力・表現力を向上させるための端末の活用その2

- ・ネットや辞書アプリ等を活用して、情報収集後情報整理。マインドマップ等を使って、それらの情報、自分の考えを整理・構成・推敲しまとめ上げ、小論文を書く。

高等部時のねらい「生活をデザインできる人になる」

Step4:やりたいことを明確に具体化するための端末の活用

- ・プレゼンテーション・自己PR・履歴書・小論文作成

Step5:生活をデザインするための端末の活用

- ・目覚まし・電車の時間調べ・障害者トイレのある駅さがし・役所関係などの手続き
- ・今日やる事の確認・目的場所探し・メールでのやりとり・読書・新聞読み
- ・積極的に関心のある人やことへアプローチしていく。

Step6:自分磨きのための端末の活用

- ・スカイプ、フェイスブック等を使った、自分にとっての要人への関係づくり等

高等部卒業時のねらい「やりたいことを実現できる、生き生きとした大人になる！！」

・実施期間:2013年4月22日開始から現在に至る

・実施者:羽鳥洋美

・実施者と対象生徒との関係:昨年度より、対象生徒の国語を担当している。国語は、週に4コマ(50分)

【活動内容と対象生徒の変化】

○対象生徒の事前の状況

〈授業中の所作に見られる様々な困難点〉

以下、対象生徒が、授業中に大変な時間と労力を使って行っていたことである。

- ・ かばんからノートや教科書等を出す、教科書を開く、指定のページを探す、ページを押さえる、プリントをファイルにとじる、またかばんにしまう。etc.
- ・ ワークシートに書く。
- ・ 宿題や連絡事項を覚える。
- ・ 黒板を見て、また、教科書の指定の箇所を探す。(黒板と教科書とワークシートの行き来)

〈事前の学習状況〉

優れた記憶力と方略、欠如を補う想像力で学力を向上させ、現在は、準ずる教育課程で学年相応、若しくは下学年対応の授業をしている。国語を指導する上で気になる学習状況を以下、まとめた。

- ・読み:初読は、読み間違い、読みとばし、勝手読みが多い。
- ・書き:困難。
- ・読解:論説文等、筆者の論を支える根拠となる部分を読み取る際、読み返したいところを見つけることが難しい。抜群の記憶力で答えてきたが、長文になると、教師の解説なしでは、文章の主題を見つけることが難しくなっていた。
- ・作文:代筆して作成。思考の堂々巡り、根拠のない抽象的な主張、二転三転する主張で、柱の通った作文が難しかった。
- ・家庭学習:国語では、ワークシートの答えや本の感想を録音できるようレコーダーを渡して出題していたが、録音不十分で解答できていないことを本人が確認しないまま提出をすることがほとんどだった。
- ・整理困難:教科書・ノート・ワークシート等、机上也かばんの中も未整理状態であった。

○活動の具体的内容と対象生徒の事後の変化:

アプリ等	活動の具体的内容	生徒の事後の変化
ゲーム	知識習得とともに、スクロールやタップ等、機器に慣れること、単に楽しむことをねらって家庭で行った。パズル、野球ゲーム等を、好んで行う。	Before: iPad 使用当初、ゲームが入っておらず、iPad よりパソコンを開くことが多かった。 After: iPad1台を身近においている。
国語辞典	主に国語の時間に使用。	Before: 学校の電子辞書を教師が用意。教科書やプリントの上に電子辞書を置き使用していた。 After: 辞典で調べ、ダブルタップで裏で起動しているアプリに戻す動作をスムーズに行っている。他の生徒と同じ速度で、引くことが可能。
VOD	デジター教科書・デジタートランスレーションソフトで作成したデジター教材を、国語、数学、社会、英語で活用。※理科はバージョンの関係で入れられず。	Before: 国語では、教科書を拡大コピーして使用。プリントの枚数が多くなり、管理が難しくなる。 After: デジター教科書を入れて、初日に、家庭で「ほとんど読んできた」とのこと。国語では、読みの速度を自分で調節し、音読の練習を自宅でする。
Pages	定期試験、自作教材、ワー	Before: 定期試験で、待機している学生に、代読・代筆を依頼して行って

	クシートを主にこのアプリで作成。7教科(国語、数学、社会、理科、音楽、保健体育)の定期試験をiPadで行う。	いた。 After:適宜待機している学生に依頼しつつ、取り組む。以前の解答と比較すると、解答率に変化は見られないが、国語では、以前見られなかった、「解答の見直し」が今回初めて見られた。
通信機能	生活全般で、情報収集に活用。	After:8月のチャレンジセミナーでは、様々なことを調べ、片道1時間半の道のりを、無事一人で往復することができた。
カメラ・録音	板書や朗読の録音を行う。文字の資料しかない場合、授業中の教師の音読を録音している。	Before:教師が板書をノートに代筆。家庭で教材を読む必要がある場合は、祖母に代読を依頼することが多かった。 After:板書を代筆する時間が短縮できた。紙媒体教材のみの際には、教師の範読の録音を指示し、それをテキストとすることで、自宅学習が可能となっていた。
メール	ワークシートその他の資料を、教師からメールで送信。	Before:各教科でのプリントが多く、未整理状態だった。指示されたプリントを探し出すまでに時間がかかった。 After:端末の中で整理して、指示通りプリントを出すことができています。
Kindle	マンガや池上彰を読書。	Before:読書嫌い。 After:「池上彰は面白い。すらすら読める。」
ホワイトボード	単に教師の名前を書いたり、1行日記的に、自分の気持ちを書いて、担任にメール送信。	Before:代筆がほとんど。書くのは、自分の名前と数字。「書く」という私的な行為なのに、前述の点で、必ず教師や保護者が介入していた。 After:スクールバスの中で、10~30字くらいの文(ひらがな)を書いている。教師の名前や、心情を書いては、メールで教師に送信。本人曰く「意外にうまく書けたので楽しくなってきた。」「書くとすっきりする」。

○報告者の主観的気づき

以下、前述した事前の学習状況について、エピソード・主観的気づき・気づきを受けての企み等をまとめる。

学習状況 その他	エピソード・主観的気づき・気づきを受けての企み
読み: 初読は、読み間違え、読みとばし、勝手読みが多い。	<p>【Episode】</p> <p>以前は、「読書は嫌い。いちいち、本を出してとか、本を読んでも、本を押さえてとか、人に依頼することが嫌でだんだん嫌いになった。自分で読むとなると、自分で本を押さえたり文字を目で追うことで必死になって意味が分からない」と言っていたが、kindleで、池上彰を読み、「面白い。スラスラ読める」。</p> <p>【主観的気づき】</p> <p>電子図書(読み上げ機能なし)を読んでいること、ネットで情報を適宜仕入れている(適宜読み上げを使いつつ)ことから、文字を聞くのではなく、読むことでもある程度理解が可能なのことが分かった。つまり、文字を読む際にかかる負荷一用意する・紙を押さえる・紙をめくる・小さいフォントを読む等、身体的ストレスがなくなること、読む内容が興味・関心のあるものであったり、読む必要性の高いものであること、この2点が、「文字を読み、ある程度理解する」ことを可能としていると考える。但し、その日の体の状態で読みの程度が変化すること、読んでいる際には、勝手読み、あるいは読めない言葉、分からない言葉を放置している可能性があることを常に考慮し、指導していく必要がある。</p>

	<p>【気づきを受けての企み】</p> <p>ストレスのない読書と、ヒブリオバトル等で読書の楽しさを自覚できる場面設定をしたい。また、その中で、勝手読みの怖さを学び、勝手読みを覆す楽しみを味わわせたい。さらに、読めない熟語、分からない熟語をそのままにしていることが多いので、豆に辞書を引きながら理解を深める楽しさも味わわせたい。</p>				
<p>書き:困難</p>	<p>【Episode】</p> <p>ペンを持ち書くという行為は困難だが、ホワイトボードアプリで書くことは楽しんで行っていた。連日、担任に、できごとや心情を10字から30字書いてはメールで送信。文字自体が読み易くなり、文字の大きさ、文字列が整ってきている。自宅では、保護者が見るので、スクールバスの中で書いているとのこと。</p> <p>【主観的気づき】</p> <p>生徒は、「書く」ことをしてはいたが、「書かない」という焦りと裏腹に、書いた文字を相手に判読してもらえないことが続き、「(分かってもらえないなら)書かなくてもいいや」という気持ちになっていったとのこと。</p> <p>しかし、このアプリを使っている中では、ペンと紙では困難だった「文字を書く」という行為が、自分から「入れて」と望んだアプリ「ホワイトボード」で可能となった(本人曰く「意外と書けたので面白くなった」)こと、書けば書くほど文字が整っていくこと、書いた文字を他者が分かってくれること、を喜びとしている様子が見て取れる。</p> <p>また、キーボードで文字を入力するより入力ミスが少ない点、より直接的な点、ペンで書くより手首の動きが少なくてよい点等からくる、心身的「楽」もあると考える。同時に、他人に介入されずに、心情を表現し残したり、伝えたい気持ちの表れもあるかと考える。</p> <p>【気づきを受けての企み】</p> <p>文字変換ソフトで、書き言葉が変換される楽しみや、心情を吐露し、それを人に伝えて気持ち楽になったり、自分で読み返す楽しみ(苦しみ)等を味わわせたい。</p>				
<p>読解:抜群の記憶力で答えてきたが、長文になると、教師の解説なしでは、文章の主題を見つけることが難しくなっていた。</p>	<p>【Episode】</p> <p>定期試験で論説文を出題した。聞き取り機能を使い易いよう工夫(表形式で作成し、段落ごとに文章を分割し、読み上げ機能で読み返し易くする等)し、「なぜ」に対する「根拠」を「本文中のキーワード」を使って答える問題を出題したところ、繰り返し、読み上げ機能を使って聞き直し、解答をすることができていた。(以前は待機学生に代読を依頼していたが、その際は、「もう一度読んでください」との依</p> <div data-bbox="600 1464 1043 1720" data-label="Image"> </div> <table border="1" data-bbox="1043 1464 1458 1823"> <tr> <td>校舎 負 り 合 い 不 れ ず</td> <td>問1 「伝言」は、なぜ、校舎の壁面に書かれていたのか。次のキーワードを使って、その理由を説明せよ。 (キーワード) ・原子爆弾投下直後・臨時の救護所 ・負傷者・伝言</td> </tr> <tr> <td>公の板 こは子 なコン</td> <td>解答欄 原子爆弾投下直後に臨時の救護所となって負傷者のあんびのための伝言がかかれた。</td> </tr> </table> <p>国語の定期試験 読み上げ機能を使って解答を見直し「これなんかへん」と入力し直す。</p>	校舎 負 り 合 い 不 れ ず	問1 「伝言」は、なぜ、校舎の壁面に書かれていたのか。次のキーワードを使って、その理由を説明せよ。 (キーワード) ・原子爆弾投下直後・臨時の救護所 ・負傷者・伝言	公の板 こは子 なコン	解答欄 原子爆弾投下直後に臨時の救護所となって負傷者のあんびのための伝言がかかれた。
校舎 負 り 合 い 不 れ ず	問1 「伝言」は、なぜ、校舎の壁面に書かれていたのか。次のキーワードを使って、その理由を説明せよ。 (キーワード) ・原子爆弾投下直後・臨時の救護所 ・負傷者・伝言				
公の板 こは子 なコン	解答欄 原子爆弾投下直後に臨時の救護所となって負傷者のあんびのための伝言がかかれた。				

頼は国語に関しては見られなかった。)

【主観的気づき】

「いちいち人に依頼するのは面倒」と本人がよく口にするように、聞き返す必要があることは分かりながらも、聞き返していなかったことが分かった。

【気づきを受けての企み】

聞き返したくなるフレーズを持つ長文、聞き返したい部分を探し易いマーク(段落番号等)の工夫、等を用意し、聞き返すことで理解が深まる喜びと、同時に、聞き返すことで、国語科的な主題やその根拠を探す等、学びが深まる喜びも味わわせたい。

作文:代筆して作成。思考の堂々巡り、根拠のない抽象的な主張、二転三転する主張で、柱の通った作文が難しかった。書いた内容、話した内容をについて、再考・推敲することはなかった。

【Episode】

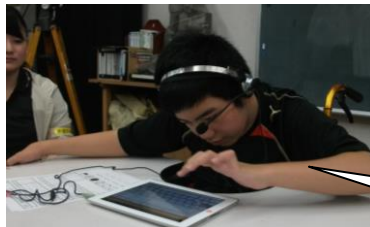
ビブリオバトル(5分で本を紹介。視聴者は、一番読みたい本に挙手。挙手者が多かったものの勝ち)実施。1回目は、自分の発表を聞き直ししないで終了。2回目は、発表を iPad で録音し、文章化したものを聞き直して、自分の口述作文(800字程度)に関する評価・改善点を具体的に出し、次回の目標を決め、その後、再度、3回目として同じ本で口述作文・発表を行った。

ビブリオバトル1回目の出だし

「今回僕が選んだのは「ブラックジャックによろしく」です。まずなんでこれを選ぼうかと思ったかという、ぼくはよく医療のドラマを見るのが好きなので、医療のアニメとか漫画となるとついつい読みたくなって、すべて一気に読み漁ってしまいます。」

ビブリオバトル自分の発表の聞き直し・自己評価後、再挑戦した3回目の出だし

「今回僕が紹介する本は、「ブラックジャックによろしく」です。このブラックジャックによろしくというお話は、医師のお話なんですけど、ブラックっていうくらいだから、悪い医師なのかなあと考えていました。最初手に取った時は、そしたらねえ、意外と研修医だったんですよえ。」



また、定期試験の際には、自分の書いた解答を、読み上げ機能で聞き直し(再考・推敲し)、「なんかへん」とつぶやき、修正することができた。

なんかへん……。

【主観的気づき】

1回目の出だしが、本を選んだ理由(医療ものが好きな理由)を述べているようで、実は全く説明しきれていないのに対し、再挑戦の3回目では、タイトルに対するイメージと内容のギャップから入る等、明らかに改善が見られる。改善された理由は、ビブリオバトル全国チャンプたちの映像を評価・分析しながら聞き返したこと、自分の口述作文についても聞き返し、チャンプと比較しながら、評価・分析し、次回に向けての改善点・目標を明確化したことと考える。

これまで、自分の書いた内容、話した内容については、書き放し、言いつ放しにすることが多かった。しかし今回、自分の口述作文を、聞き返し、評価・分析することで、明らかに作文の力を上げられることが、本人の中で確認できたと考える。

【気づきを受けての企み】

他者の文章や、生徒自身の言動・口述作文をテキスト化し、読み上げ機能で聞き直し、分析・評価し、再度文章を作る学習活動を繰り返し行い、作文力が向上している喜びをたっぷりと

味わわせたい。

家庭学習:国語では、ワークシートの答えや本の感想を録音できるようレコーダーを渡して出題していたが、録音不十分で回答できていないことを本人が確認しないまま提出をすることがほとんどだった。

【Episode】

漢詩(現代人には、無意味語とも思える言葉の羅列)の音読。家庭で予習をした後は、ハイライト機能なしで読み間違い、読みとばし、勝手読みなしの滑らかな音読をする。その他、音読と簡単な基礎的読解に関しては、家庭で読み上げ機能を使って聞き返すことで、確実に力をつけていった。本人も、家庭学習後の教室での音読で、1か所読み間違えただけでも大変悔しがる等、家庭学習が成果を挙げることを自覚している様子が見て取れた。



近隣の保育園児への読み聞かせの会
端末の中の台本をスクロールして音読。家庭で、繰り返し練習した成果を発揮し、大学生「感動しました!」、保育園児「もう終わりー。もっとやって」、校長「とてもよいのでみなさん見るとよいです」等、たくさんの感想をいただく。本人曰く「また、やりたいです!」。

【主観的気づき】

家庭学習をすすんで行き、成果が上がった活動は、デイジー教科書・読み上げ機能を使っての音読練習、聴読本棚アプリ・kindle を使っての読書だった。ワークシートは、答えを入力してはあるものの、不完全なままメールで提出をしている。ワークシートについても、読み上げ機能が使用できるように作ってあるが、答えを読み返し、きちんと解答しようとする意識が、定期試験と比較すると格段に低い。宿題をしようという気持ちは以前よりも上がっているが、「きちんとやる」、へのモチベーションは今一つ上がらない様子である。

【気づきを受けての企み】

推敲を重ねたくなるような、本人にとって価値のある宿題を出して、学びの楽しさを味わわせたい。

整理困難:教科書・ノート・ワークシート等、机上也かばんの中も未整理状態であった。

【Episode】よく出てくる会話:



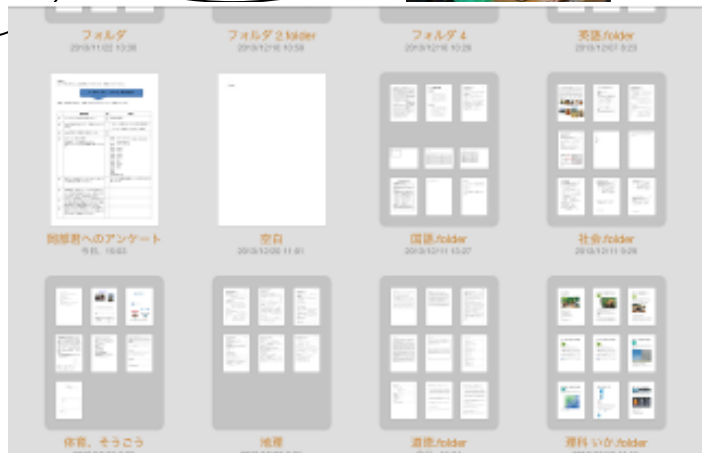
〇〇のプリント出して。

はい。〇〇のプリントですね。



【主観的気づき】

教科書、ノート、プリント類は、上肢の操作性の困難さから、自分で整理・管理することは難しかった。以前から、机上、かばんの中を整理・管理をすることが困難で、必要な教材を探し、見つけるのは大人だったことから、整理・管理という作業は、「困難だけど挑戦する作業」から、本人にとって「結局は人がやっ



フォルダー整理
当初フォルダーにタイトルはなく、ばらばらにおさめられていた。これは、指導後の様子。

	<p>てくれる作業」になっていったと考える。この状態が長く続いたために、iPad を使い始めた頃も、各教科から送られるプリント類を整理しようとするのではなく、タイトルを付けず、未整理状態が続いた。そこで、整理を指導すると、教科ごとにフォルダーを作り、そこに、ワークシート類を入れるようになった。</p> <p>整理するということは、たくさんの情報をジャンルで分け、分かり易いようにタイトルを付け、使い易いように収納する、という、様々な思考や判断を必要とするなかなか深い作業である。そういった、管理・整理、という作業への関心が、本人の中で、多からず芽生えてきていると考える。</p> <p>【気づきを受けての企み】</p> <p>月に一度、テーマを決めて、iPad の整理をし、その後、状況を確認する日を設ける。そして、授業では、その成果を確認できる場面を設定して、整理することでいかに楽に資料を仕分けしたり、見つけ出したりできるかを十分に味わわせたい。</p>
<p>その他学習以外</p>	<p>【Episode】</p> <p>2013年8月チャレンジセミナーの前日、保護者から付き添い不可能を言われた。その後、最寄の駅の電話番号、目的地までの行き方、電車の時刻、運賃、地図、等を調べ、駅に電話をし、協力を依頼。当日、トラブルはあったものの、3時間の道のりを遅刻もせず一人で往復。感想は、「不安はなかった。むしろ楽しかった。今度は一人で旅行したい」とのこと。</p> <p>【主観的気づき】</p> <p>「自由に」「自分で」は、長い間、ほぼ24時間大人の管理下にあった0君にとって、本当に重要なキーワードだということが、改めて確認できた。使い慣れた機器で適した情報を探し出し、計画し、実行する。この楽しさを存分に味わったこの体験は、日頃、ついつい口と手を出してしまう教師の指導方法を見直すきっかけともなった。「自由に」「自分で」計画、実行していくことは、思考力、判断力、表現力、問題解決能力等、生きる上で必要な力を総合的に、しかも非常に面白く向上させることを、再確認した。</p> <p>【気づきを受けての企み】</p> <p>一人旅を何とか実現させたい！</p>
<p>本人の夢の変化</p>	<p>【Episode】</p> <p>2012年6月（中学1年）時点、「ホテルのコンシェルジュになりたい」。</p> <p>現時点での夢は、「iPad を極め、機器のアドバイザー（指導者？）になりたい」。</p> <p>【主観的気づき】</p> <p>コンシェルジュについては、コンシェルジュになって具体的に何をしたいか、についての問いに対して明確に答えられないぼんやりとしたものだった。現時点での夢、機器のアドバイザーについても、その詳細には答えることはできていない。</p> <p>しかし、教室で、他の生徒に iPad の操作方法を教えたり、教員に対しても（私だが）、機器の準備に手間取っていると、的確な解決方法を与えてくれることが数回だけあった。そこで、よくよく話を聞くと、家庭で、親戚の力を借りながら、壊れたパソコンを分解して組み立て直すといったことをよくやっているとのこと。</p> <p>つまり、生徒自身が機器と関わることを趣味としていること、機器を十分ツールとして</p>

活用していること、機器操作の腕前と知識が他者の役にも立っていること、他者からそれについて評価を受けていることが、今回の夢につながっていると考ええる。

生活の中で、他者に依頼することが多い彼である。彼自身は、小児科医の熊谷晋一郎氏の言葉「自立することは依存すること」という言葉を十分理解しながらも、依頼するときに「面倒」とか「申し訳ない」という気持ちを常に持っていることも事実である。

自分の立ち位置で力を発揮し、互いに相手を思いやり認めながら「依存し合う関係」ができた時、人への依頼を「面倒」「申し訳ない」と思う気持ちが軽減し、本当の自己肯定感が生まれるのではないかと考えている。

【気づきを受けての企み】

機器の有用感を今以上に持つこと、アプリ紹介の外への発信等、外に目を向けること、課題発見・問題解決を繰り返し行って行くこと、失敗、試行錯誤を繰り返しながらこれらを積み重ねていく中で、総合的に力を伸ばして行ってほしい。

【考察と今後の課題】

昨年までの対象生徒は、紙媒体の読み物を読む、ノートに文字を書く、教材や文房具を準備・片付けする、こういった行為を他者との比較の中で自分ができないこと、それを人に依頼しなくてはいけないこと、周囲の大人はそれらができるようになることを望んできたこと、これらのことが

○心に与えてきた影響は

「読書が嫌いになった」

「文字を書かないとと思っていたが、書いても分かってもらえなくていやになった」

「いちいち人に依頼するのは面倒」

といったネガティブなものであった。さらに、

○心に与える負の積み重ねは、“もういいや感”を生み

○準備・片付け・整理等、自分の環境の整備も結局は人任せ

となっていた。“もういいや感”は、学習の中で、

○情報(文字媒体・他者の考え)の(読み返し・聞き返しによる)再考をしない状態・

○自分の考えを再考しない状態

を生み、

○情報集めっ放し、自分の考え言いつ放しの状態

○論理的説明を組み

立てることが難しい状態

が続いていた、と考えている。

今年度、iPadを活用して、

○本生徒の手・目から生じる困難さはツールの活用で軽減

した。先述の負の積み重ねによる学習や生活の中へのネガティブな影響は、iPadの活用で、白紙とは言わないまでも大幅に少なくなり、

○『△△が困難な自分』から『□□すれば☆☆できる自分』

へ変化した。具体的には、前述したが、

○読み上げ機能は、言動・記述の聞き直しを可能とし、

○自分の言動・記述を分析・評価ができることで、言動・記述の再考が可能となった。

○音読力・基礎的読解力も向上し、

○他者からの評価も高まることとで自信にもつながった。

また、準備等にかけていた時間は減少し、最近では、机上に iPad 一台のみという状態を、本生徒自身が肯定できるようにもなっている。(以前は、教科書、ノート、筆箱、iPad、プリントと、iPad 導入以前より乱雑であった。)

このように、iPad の活用で、彼を困む様々なことは具体的に大きく変化した。その中でも彼自身の心の変化は、大きいと考える。

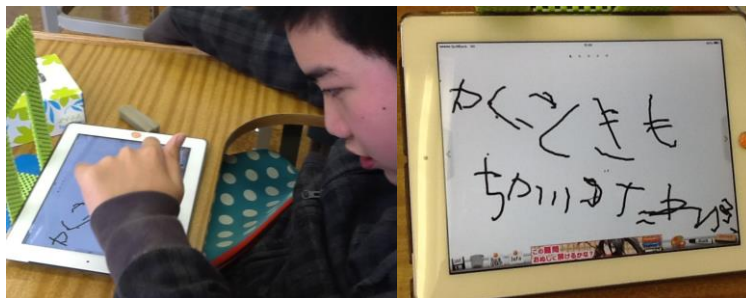
○心身のストレスが軽減

して、彼が自分からのぞんだアプリは、「野球ゲーム」「将棋ゲーム」「辞書」そして、「ホワイトボード」であった。私としては、大変意外だったが、彼は、アプリを使って、「書く」行為に再びこだわり始めたのである。では、彼がこのアプリでしたいことは何なのか。それは、

○自分の気持ちを伝えること

だったとのことである。

2 週間程度だが、彼は毎日 10 字から 30 字の文章を書き、担任に送信していた。彼はそのことについて、「一人で気持ちを抱え込むとおかしくなるから、一番分かってほしい人(担任)に文章を作って気持ちを伝えるのは大事」と言っている。同時に、「書



ホワイトボードアプリ。「かくときもちがつつたわる」

く行為は保護者には見られたくない」というところに、保護者の加護を今までのように受容しない、自立したいという気持ちが表れている。これは、8 月チャレンジセミナーへの参加を一人で計画立案・実行した後、「今度は一人で旅行に行きたい。いつも親が行くところを決めていたけれど今度は自分で決めたい」といった、自信の表れから生じたあの「自分で」「自由に」という気持ちと通じるものであると考える。

ホワイトボードアプリでの気持ちの吐露は、保護者の加護からの自立したいという心の成長と同時に、思春期の彼は、心身の抱える不安を表現し伝えることで乗り越えようとしていると考える。

とはいえ、担任へのこうした気持ちの吐露は、今、途絶えている。それは、なぜか。理由は様々考えられるが、この程度の文字数では、彼の複雑な思いは吐露しきれないと考えてはいた。

今後彼が、

○自分の夢『iPad の指導者になる』

を実現させるために様々な試みが必要だが、同時並行で必要なことは、

○複雑な内面を、言葉で余すところなく吐露し、様々な漠然とした不安から解放されたり、問題を解決していくこと

をできるようにしていくことだと考えている。

そのために、ホワイトボードだけではなく、彼が、気持ちを余すところなく、また、(気持ちの吐露は私的なものなので)できるだけ人の介入なく表現できる方法を見つけ提示すること、また、「なんとなく鬱々とする」の「なんとなく」の部分具体的に説明し、課題発見・問題解決できる力をつけていく学習場面を設定していくこと、が大切になっていくと考える。

一方、1 年間彼とプロジェクトを進めてきて、教師サイドが学んだことは、

○ある力をつけるために最適な学習内容と学習方法を提示すること

の大切さである。

例えば、作文の学習では、文字で苦労して書くことが目的ではないし、読解の授業では、紙媒体を自分で押さえて文字を読んで読解することが目的ではない。その時々学習の目的を達成するためには、邪魔となる心身のストレスは可能な限り軽減して行くことが必要と考えるようになった。

先生、iPad を出しておけば、教科書は出さなくてもいいですか？
(今年 1 月の言動)

こうすることで、学習の目的が明確化し、学習効率を上げるだけでなく、同時に、彼が依存できる手段の増加、目的によって依存する手段を判断・選択する力の向上が、教師側にも生徒側に見込まれると考える。

最後に、彼には、夢の実現に向けて、様々なことを体験していくことで、自身の力を伸ばして、自己肯定感・自己有用感を高めていってほしい。そして、それと同時に、その途中で悩み苦しんだ時に、以前のように一人で抱え込み鬱々とするのではなく、気持ちを吐露し、前に進めるような力を育てていってほしい。

単に、iPad の操作に慣れ親しんだだけではなく、様々なことを考えた1年間であった。

さまざまな困難と打開策、事後の変化などシンプルマインドアプリでまとめてみた

